

平成 29 年度

修士課程

鍼灸学専攻（通信教育課程）

授 業 計 画

（シラバス）

明治国際医療大学大学院

大学院 修士課程 鍼灸学専攻（通信教育課程） 教育課程

(鍼灸学研究科鍼灸学専攻 修士課程)									
科目区分	授 業 科 目	配当年次	単位数	時間数	伝統鍼灸学	鍼灸基礎医学	鍼灸臨床医学	ヘルスサイエンス鍼灸学	備 考
					必修	必修	必修	必修	
基盤科目	統合医療学特論Ⅰ	1	2	30	2	2	2	2	修了に必要な単位は、必修科目 24 単位と専門科目の研究法 2 単位以上、演習 4 単位以上を選択し、合計 30 単位以上とする。
	統合医療学特論Ⅱ	1	2	30	2	2	2	2	
	最新鍼灸医学特論	1	1	15	1	1	1	1	
	学際領域鍼灸医学特論	1	1	15	1	1	1	1	
	基礎鍼灸医学特論	1	4	60	4	4	4	4	
	臨床鍼灸医学特論	1	4	60	4	4	4	4	
	実験研究法	1	2	30	2	2	2	2	
専門科目	伝統鍼灸学研究法	1	2	30	2				
	鍼灸基礎医学研究法	1	2	30		2			
	鍼灸臨床医学研究法	1	2	30			2		
	ヘルスサイエンス鍼灸学研究法	1	2	30				2	
	伝統鍼灸学演習	1・2	4	120	4				
	鍼灸基礎医学演習	1・2	4	120		4			
	鍼灸臨床医学演習	1・2	4	120			4		
	ヘルスサイエンス鍼灸学演習	1・2	4	120				4	
	特別研究	1~2	8	240	8	8	8	8	
合 計			-	-	30	30	30	30	

■ 基盤科目

授 業 科 目 名	統合医療学特論 I					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	今西二郎					
テ ー マ	統合医療の概念、日本および世界における統合医療の現状を理解し、日本における統合医療のあり方及び統合医療における伝統医療の役割について考える。					
授 業 の 概 要	医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と心身医学、⑤統合医療と先端医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合医療の概念について理解すること 2. 近代医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAM の特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること。 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること。 					
授 業 計 画						
回	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		テキスト 頁
1	[授業概要(今西1)] 補完・代替医療総論 1			統合医療 (テキスト)		p. 2 ~60
	[到達目標(今西1)] 補完・代替医療の定義を理解し、その種類を挙げることができる。					
2	[授業概要(今西2)] 補完・代替医療総論2			統合医療 (テキスト)		p. 61 ~83
	[到達目標(今西2)] 補完・代替医療の特徴、各国の現状、わが国の現状を理解する。					
3	[授業概要(今西3)] 補完・代替医療総論3			統合医療 (テキスト)		p. 92 ~102
	[到達目標(今西3)] 補完・代替医療の問題点を理解し、また補完・代替医療の科学的根拠を確立するための方策を考える。					
4	[授業概要(今西4)] 日本伝統医学としての漢方 1			入門漢方医学 (文献 1)		p. 30 ~83
	[到達目標(今西4)] 漢方医学での病態の捉え方を理解し、診断法を知る。					
5	[授業概要(今西5)] 日本伝統医学としての漢方 2			入門漢方医学 (文献 1)		p. 86 ~176
	[到達目標(今西5)] 生薬と漢方方剤を理解する。					

6	[授業概要(今西6)] 日本伝統医学としての漢方3	入門漢方医学(文献1)	p. 178 ~256
	[到達目標(今西6)] 各臨床症状に対する漢方方剤の実際の使い方を理解する。		
7	[授業概要(今西7)] メディカル・アロマセラピー1	メディカル・アロマセラピー(文献3)	p. 2 ~101
	[到達目標(今西7)] メディカル・アロマセラピーの定義、エッセンシャルオイル、方法、対象疾患・症状とそのレシピなどを理解する。		
8	[授業概要(今西8)] メディカル・アロマセラピー2	メディカル・アロマセラピー(文献3)	p. 110 ~202
	[到達目標(今西8)] メディカル・アロマセラピーの応用の実際について、理解する。		
9	[授業概要(今西9)] メディカル・アロマセラピー3	メディカル・アロマセラピー(文献3)	p. 110 ~119
	[到達目標(今西9)] エッセンシャルオイル抗微生物作用について、理解する。		
10	[授業概要(今西10)] サプリメント1	医療従事者のための補完代替医療(文献4) 統合医療(テキスト)	p. 127 ~138 p. 18 ~21
	[到達目標(今西10)] サプリメントの定義、特定保健用食品と栄養機能食品を理解する。		
11	[授業概要(今西11)] サプリメント2	医療従事者のための補完代替医療(文献4)	p. 127 ~138
	[到達目標(今西11)] その他の主なサプリメント、医薬品の相互作用について、概説できる。		
12	[授業概要(今西12)] 温泉(温浴)療法	医療従事者のための補完代替医療(文献4)	p. 335 ~342
	[到達目標(今西12)] 温泉とは、温泉の効果、入浴剤の効果、温泉療法の実際について理解する。		
13	[授業概要(今西13)] 統合医療総論1	統合医療(テキスト)	p. 2 p. 104 ~106
	[到達目標(今西13)] 統合医療の定義、現状、がんと統合医療を理解し、そのあり方を考える。		
14	[授業概要(今西14)] 統合医療総論2	統合医療(テキスト)	p. 108 ~128
	[到達目標(今西14)] 次世代型統合医療とは、スピリチュアリティとは、次世代型統合医療の実践例について知る。		
15	[授業概要(今西15)] 統合医療総論3	統合医療(テキスト)	p. 103 ~133
	[到達目標(今西15)] 認知症の予防、生活習慣病、ストレス軽減と統合医療の現状を知り、将来のあり方を考える。		
リポート課題		《課題1》 『統合医療における現状と課題』 《課題2》 『理想とする統合医療の意義、理念及びあり方について』	
テキスト(配付資料)		今西二郎：統合医療 改訂2版, 金芳堂, 2015.	

参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入門漢方医学, 日本東洋医学会学術教育委員会編集, 南江堂, 2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』 Part1. 基礎編, 日本統合医療学会, 2007. 3. 今西二郎: メディカル・アロマセラピー改訂第3版, 金芳堂, 2015. 4. 今西二郎: 医療従事者のための補完代替医療第2版, 金芳堂, 2009.
評 価 方 法	各レポート課題に合格した後、科目修了試験(レポート試験)を行い、総合して評価する。
その他(アドバイス等)	日本統合医療学会誌を参考とする。

授 業 科 目 名	統合医療学特論Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1年
授 業 担 当 者	伊藤和憲、斉藤宗則、山崎 翼					
テ ー マ	統合医療の概念とそれに必要な知識					
授 業 の 概 要	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と西洋医学、⑤統合医療と東洋医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合医療の概念について理解すること 2. 統合医療を広めるために必要な知識 3. 伝統医学、CAMの特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること 					
授 業 計 画						
回	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		テキスト 頁
1	<p>[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 1 (山崎) [到達目標] エビデンスの意味やその調べ方、その作り方について議論を深める。</p>					
2	<p>[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 2 (山崎) [到達目標] エビデンスを作るために必要な研究デザインの知識について議論を踏まえる。</p>					
3	<p>[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 3 (山崎) [到達目標] 医師と連携するために必要な西洋医学的知識について議論を深める。</p>					
4	<p>[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 4 (山崎) [到達目標] 医師と連携するために必要な西洋的検査について議論を深める。</p>					
5	<p>[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 5 (斉藤) [到達目標] 東洋医学の歴史と概念について議論を深める。</p>					

6	[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 6 (斉藤) [到達目標] 東洋医学の基礎技術について議論を深める。		
7	[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 7 (斉藤) [到達目標] 古文書の読み方について議論を深める。		
8	[授業概要] 統合医療と養生:1 (伊藤) [到達目標] 養生としての統合医療について学習する。		
9	[授業概要] 統合医療と養生:2 (伊藤) [到達目標] 身体をゆるめるという視点から養生を学習する。		
10	[授業概要] 統合医療と養生:3 (伊藤) [到達目標] 身体を温めるという視点から養生を考える		
11	[授業概要] 統合医療と養生 ; 4 (伊藤) [到達目標] 身体を整えるという視点から養生を考える。		
12	[授業概要] 統合医療と養生 : 5 (伊藤) [到達目標] 生活習慣の視点から養生を考える。		
13	[授業概要] 医療の中の養生:1 (伊藤) [到達目標] 医療の中での養生 (統合医療) のあり方を考える・。		
14	[授業概要] 医療の中の養生:2 (伊藤) [到達目標] 医療の現状を考え、養生 (統合医療) のあり方を考える・		
15	[授業概要] 医療の中の養生:3 (伊藤) [到達目標] 養生 (統合医療) を広めるための方法を考える。		
リポ	課題	課題1: 統合医療を実践していくために鍼灸師に必要なこととは 課題2: 統合医療がこれからの社会にできること	
テ	キ	特になし。	
参	考	1. 伊藤和憲: 慢性痛は自分で治せる (KK ベストセラーズ) 2. 伊藤和憲: いちばんやさしい痛み治療 (医道の日本) 3. 伊藤和憲: トリガーポイント治療 セルフケアのメソッド (緑書房) 4. 伊藤和憲: 子供のためのトリガーポイントマッサージ&タッチ (緑書房)	
評	価	各講義の小テストを終了し、レポート課題を提出した後、科目修了試	

	験を実施する。上記を総合して評価を行う。
その他（アドバイス等）	特になし

授 業 科 目 名	最新鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎角谷英治、川喜田健司、中山登稔、岡田 薫					
テ ー マ	最新の基礎研究におけるトピックス、特に鍼灸医学と関連するテーマを取りあげ、基礎医学研究の成果とその意義について考える。					
授 業 の 概 要	<p>(概要) 現代医学における基礎研究の最新のトピックスを取りあげ、どのような研究が注目され、研究対象とされているかについて医学情報を紹介し、最新の基礎医学研究の成果とその解釈(考察)について教授する。</p> <p>(川喜田健司/1回) 痛みに関する最新の知見として、痛みのメカニズムと内因性鎮痛システムなどについて教授する。(トリガーポイントの発現機序を含む)</p> <p>(角谷英治/4回) 鍼灸刺激と鎮痛系に関する最新の知見として、ハリ刺激の鎮痛効果とその作用機序などについて教授する。</p> <p>(中山登稔/1回) 中枢神経機能に関する最新の知見として、高次神経機能、特に脳研究とその成果などについて教授する。</p> <p>(岡田 薫/2回) 痛みに関する最新の知見として、痛みのメカニズムと内因性鎮痛システムなどについて教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 痛みに関する最新の知見について理解すること 2. 体性自律神経反射の最新の知見について理解すること 3. 最新の基礎医学研究の進歩について考えること 					
授 業 計 画						
回	概 要			備考(授業時間外学習の指示等)		テキスト頁
1	<p>[授業概要(川喜田1)] トリガーポイントの成因と鎮痛機序</p> <p>[到達目標(川喜田1)] トリガーポイントの成因と内因性鎮痛系への関与を理解させる。</p>			関連論文および資料の読解		
7	<p>[授業概要(岡田1)] 痛みのメカニズムと内因性鎮痛系</p> <p>[到達目標(岡田1)] 痛みの発生と内因性鎮痛系について理解する。</p>			関連論文および資料の読解		
2	<p>[授業概要(岡田2)] 未定</p> <p>[到達目標(岡田2)] 未定</p>					
3	<p>[授業概要(角谷1)] 鍼鎮痛の概要</p> <p>[到達目標(角谷1)] 鍼鎮痛の概要について理解できる。</p>			鍼刺激の特性と内因性鎮痛系について予習する。		
6	<p>[授業概要(角谷2)] 上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛</p> <p>[到達目標(角谷2)] 鍼鎮痛における上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛の関与の可能性について理解できる。</p>			上行性痛覚抑制系と末梢性鎮痛に関する論文を読み、簡単にまとめる。		

4	[授業概要(角谷3)] 未定		
	[到達目標(角谷3)] 未定		
5	[授業概要(角谷4)] 未定		
	[到達目標(角谷4)] 未定		
8	[授業概要(中山1)] 近年の非侵襲的脳神経活動の研究手法が飛躍的に進歩しているが、本講義においては非侵襲的脳研究手法を紹介し、それらの手法を用いた鍼研究の成果について解説する。	脳神経、脊髄神経と末梢神経の構成・構造を予習すること。	
	[到達目標(中山1)] 非侵襲的脳研究手法への認識と鍼刺激における脳神経活動への影響を理解する。		
リポート課題	《課題》 1～8回の授業から一つを取り上げ、授業内容を整理するとともに考察を加える。		
テキスト(配付資料)	※ 参考文献を参照		
参考文献	1. トリガーポイント鍼両方, 川喜田健司慣習, 医道の日本社, 1995 2. 痛みのメカニズム, 横田敏勝, 南江堂, 1997 3. 鍼灸臨床の科学, 西条一止, 熊澤孝朗監修, 医歯薬出版, 2000. 4. 体性-自律神経反射の生理学, 佐藤 昭夫/佐藤 優子/R.F. シュミット 山口 眞二郎, シュプリンガー・ジャパン, 2007.		
評価方法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。		
その他(アドバイス等)	随時、適当な文献を紹介する。		

授 業 科 目 名	学際領域鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎梅田雅宏、伊藤和憲、山崎 翼、矢野 忠					
テ ー マ	医療と情報、医療と社会、健康の病気などの各分野における中心的内容をとり上げ、学際的な観点から鍼灸医学をとらえなおす。					
授 業 の 概 要	<p>①医療と情報、②医療と社会、③予防と未病、④健康と病気の各分野における中心的内容をとり上げ、それらと鍼灸医学との関連性について教授する。</p> <p>(梅田雅宏/2 回) 医療情報に関する最新の知見として、医療情報とは何か、医療情報の意義と価値などについて教授する。</p> <p>(矢野 忠/2 回) 健康論の変遷などについて、健康と病気との関係性を通して健康とは何か、健康と伝統医学との関係を教授する。</p> <p>(山崎 翼/2 回) 予防医学、未病医学の概要として、貝原益軒の『養生訓』にみる養生の意義や未病医学の意義などについて教授する。</p> <p>(伊藤和憲/2 回) 医療問題について教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報とは何か、その意義と価値について理解すること。 2. 医療社会学という学問について理解すること。 3. 養生の意義と未病医学の意義と視点について理解すること 4. 健康と病気及び健康論について理解すること 5. 鍼灸医学における学際的な視点の必要性について考えること 					
授 業 計 画						
回	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)				テキスト 頁
1	[授業概要(梅田1)] 医療に関連する情報の創出とそのデータの扱い方、利用の仕方を考え、現在の医療データ管理の現状を学習する。また、IT化の進化としてネットワークシステムについて解説し、その医療への応用を解説し、医療とコンピュータの関わりについて理解を深める。	小テストの提出：高齢者医療へのコンピュータ技術応用のメリットとデメリット。(記述形式 300 字以内)				1 の p. 2 ～75
	[到達目標(梅田1)] 医療行為に伴う情報の種類や内容を理解し、医療情報の収集、整理、利用法を考え、ネットワークシステムを生かした医療情報システムが運用されようとしていることを理解する。					
2	[授業概要(梅田2)] 病院における医療情報の種類と流れを把握し、現在の病院システムを解説する。さらに検査データについて	小テストの提出：医療記録をデジタル化するために必要な取り決め				1 の p. 78

	<p>の種類とその種別について解説する。また電子カルテなどにおけるメリットとデメリットについて解説する。</p> <p>[到達目標(梅田2)] 医療行為に伴う情報の性質について理解し、その扱い方やコンピュータを利用した情報の流れを理解する。</p>	<p>についてまとめる。(記述形式 300字以内)</p>	<p>～161, 274～313</p>
3	<p>[授業概要(伊藤1)] 医療問題 「慢性痛」を例に、治療には鍼灸治療以外にも、セルフケアやセルフマネジメントなどの方法論が必要不可欠であることを教授する。</p> <p>[到達目標(伊藤1)] 医療問題 鍼灸治療の中にセルフケアやセルフマネジメントの方法が必要であることを理解する。</p>	<p>慢性痛や線維筋痛症などの関連論文の読解</p>	
4	<p>[授業概要(伊藤2)] 医療問題 医療費の高騰や財政の逼迫など、本邦が抱える医療問題の中で、鍼灸治療がどのように進むべきかについて教授する。</p> <p>[到達目標(伊藤2)] 医療問題 本邦における医療問題と鍼灸治療の可能性について理解する。</p>		
5	<p>[授業概要(矢野1)] 「健康」という用語の誕生と「健康」という概念について学習するとともに東洋医学の健康観について学習する。特に明治期に健康に対する概念の変化について理解する。</p> <p>[到達目標(矢野1)] 「健康」という用語の誕生とその概念の変化について理解する。</p>	<p>健康観の転換－新しい理論の展開, 園田恭一, 川田千恵子, 東京大出版会</p>	<p>p.～</p>
6	<p>[授業概要(矢野2)] 「健康」に対する捉え方と多様な健康観について学習し、健康という概念の多義性と各々の健康観の特徴を理解する。そのことを通して、健康についての自己の視点を涵養する。</p> <p>[到達目標(矢野2)] 「健康」の多様な捉え方と各健康観の特徴を理解する。</p>	<p>健康観の転換－新しい理論の展開, 園田恭一, 川田千恵子, 東京大出版会</p>	<p>p.～</p>
7	<p>[授業概要(山崎1)] 貝原益軒とは、養生訓の重要な考え方について概説する。</p> <p>[到達目標(山崎1)] 養生訓の総論について理解する。</p>	<p>関連資料の読解</p>	<p>p.～</p>
8	<p>[授業概要(山崎2)] 養生訓の具体的な養生法(飲食、鎮病、折医、用薬、養老、鍼灸)の主な内容について紹介する。</p> <p>[到達目標(山崎2)] 養生訓の各論について理解する。</p>	<p>関連資料の読解</p>	<p>p.～</p>

リポート課題	《課題》 『鍼灸医学における学際領域との関連について』
テキスト（配付資料）	1. 医療情報 医学・医療編 新版, 日本医療情報学会医療情報技師育成部会, 2009. 2. 医療社会学を学ぶ人のために, 進藤雄三, 黒田浩一郎, 世界思想社, 1999. 3. 養生・未病に関する配布資料 4. 新しい理論の展開, 園田恭一, 川田千恵子, 東京大出版会
参考文献	1. 医療情報学入門, 樺澤 一之, 豊田 修一, 共立出版, 2006. 2. 医療社会学を学ぶ人のために, 進藤雄三, 黒田浩一郎編, 世界思想社, 2001. 3. わかりやすい医療社会学, 野村拓, 藤崎和彦, 看護の科学者, 1997.
評価方法	リポート課題に合格した後、科目修了試験（リポート試験）を行い、総合して評価する。
その他（アドバイス等）	随時、適当な文献を紹介する。

授 業 科 目 名	基礎鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎和辻 直 ○熊本賢三、榎原智美、○林 知也、川喜田健司、○糸井マナミ ○和辻 直、斉藤宗則、角谷英治					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、鍼灸医学と関連が深いと考えられる基礎医学的分野および鍼灸医学の伝統的基礎理論分野の各領域における最新の知見について学習し、基礎鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	<p>鍼灸医学に関連する形態学(特に鍼灸臨床と関係の深い体表解剖及び皮膚の形態)、機能学(特に鍼灸刺激で生じるさまざまな生体现象を理解する基礎となる生体の調節機構)、免疫学(特に免疫系・生体防御系)について教授する。また、鍼灸医学の根底を成す古医書及び鍼灸医学の基礎理論となる経絡経穴学・診察法(四診法)等についてより専門的に教授する。</p> <p>【形態学領域】 (熊本賢三/4回) 体表解剖について教授する。体表解剖と神経、血管あるいは臓器の位置関係について教授する。 (榎原智美/4回) 皮膚の形態について教授する。鍼灸刺激の対象である皮膚、鍼灸治療の触診のための感覚受容部としての皮膚、の形態学的基盤について教授する。</p> <p>【機能学領域】 (川喜田健司/4回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。動物機能において特に体性神経系機能などを教授する。 (林 知也/4回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。植物機能において、特に循環・消化・代謝などについて教授する。</p> <p>【免疫学領域】 (糸井マナミ/8回) 体表刺激の視点から、免疫、生体防御系と一部、精神神経免疫学について教授する。</p> <p>【基礎鍼灸学領域】 (斉藤宗則/4回) 鍼灸医学の基礎理論について、東洋医学的観点から教授する。主として医学古典の検索方法や基礎的な読み方について教授する。また、鍼灸臨床の安全性について、感染防止と医療過誤の観点から教授する。 (角谷英治/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として西洋医学の観点で捉えた経路、ツボについて教授する。 (和辻 直/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として東洋医学の診察法、特に舌診について</p>					

	教授する。		
視 点 (ねらい)	<p>【形態学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鍼灸臨床における体表解剖学の重要性について理解すること 2. 皮膚の形態学的基礎と皮膚感覚受容器について理解すること <p>【機能学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表刺激と体性神経機能との関係について理解すること 2. 体表刺激と消化・代謝機能との関係について理解すること 3. 体表刺激と循環・生体調節機能との関係について考えること <p>【免疫学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫学の基本について理解すること 2. 生体防御系について理解すること 3. 体表刺激と免疫及び生体防御系との関係について考えること <p>【基礎鍼灸学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の基本的な整体観、原因、臓腑や経脈について理解すること 2. 経脈理論について理解すること 3. 形態医学的・機能学的にみた経絡、ツボについて理解すること 4. 舌診の診断的有効性について理解すること 5. 鍼灸臨床における安全性を理解すること 		
授 業 計 画			
回	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)	テキスト頁
1	[授業概要(熊本1)] 頭の体表解剖	「解剖学アトラス」越智淳三 (文光堂) を読み解剖学の理解を深める	
	[到達目標(熊本1)] 頭の体表解剖が説明できる		
2	[授業概要(熊本2)] 頸の体表解剖	「局所解剖カラーアトラス」北村清一郎 (南江堂) を読み理解を深める	
	[到達目標(熊本2)] 頸の体表解剖が説明できる		
3	[授業概要(熊本3)] 胸の体表解剖	「体表解剖カラーアトラス」佐藤達夫監訳 (南江堂) を読む	
	[到達目標(熊本3)] 胸の体表解剖が説明できる		
4	[授業概要(熊本4)] 腹・背の体表解剖	「生体の観察」星野一正著 (医歯薬出版) を読み理解を深める	
	[到達目標(熊本4)] 腹・背の体表解剖が説明できる		
5	[授業概要(榎原1)] 組織学的基礎を概説する	参考文献 (図書) の「入門組織学」と「標準組織学 総論」を予習・復習し、組織学全般を把握する。	
	[到達目標(榎原 1)] 人体を構成する4組織を区別して定義し、器官の組織構成を簡単に解説できる。		
6	[授業概要(榎原2)] 皮膚とは何か。形態学的観点。	上記参考書に「標準組織学各論」を加えて予習・復習し、皮膚組織とはなにか、を、形態学的に理解する。	
	[到達目標(榎原 2)] 皮膚、粘膜、漿膜の		

	形態学的定義と機能、および皮膚の層構造（表皮・真皮・皮下組織）を組織の特徴とともに解説できる。		
7	[授業概要(榎原3)] 皮膚の感覚受容器の形態学的基礎 [到達目標(榎原 3)] 皮膚に分布する感覚受容器の形態学的定義と、多様性を解説できる。	上記参考書に「Gray's Anatomy」を加えて予習・復習し、神経組織学的基礎と皮膚感覚受容器を把握する。	
8	[授業概要(榎原4)] 皮膚の機械受容器の最近の知見 [到達目標(榎原 4)] 複数の機械受容器の形態学的特徴を概説できる。	上記参考書を予習復習し、機械受容器の形態学的特徴を把握する。	
9	[授業概要(川喜田1)] 体表刺激で興奮する体性感覚受容器 [到達目標(川喜田 1)] 各種受容器の特徴を理解させる。	関連論文および資料の読解	
10	[授業概要(川喜田2)] ポリモーダル受容器の構造と機能 [到達目標(川喜田 2)] ポリモーダル受容器の持つ役割について理解させる。	関連論文および資料の読解	
11	[授業概要(川喜田3)] 体性感覚刺激でおこる筋緊張緩和作用 [到達目標(川喜田 3)] 筋緊張の調節機構を理解させる。	関連論文および資料の読解	
12	[授業概要(川喜田4)] 体性感覚刺激でおこる鎮痛作用 [到達目標(川喜田 4)] 内因性鎮痛機構を理解させる。	関連論文および資料の読解	
13	[授業概要(林1)] 消化・吸収機能と体表刺激について [到達目標(林 1)] 消化・吸収機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	関連資料および論文の読解	
14	[授業概要(林2)] 代謝機能と体表刺激について [到達目標(林 2)] 代謝機能の内、特にエネルギー代謝機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	関連資料および論文の読解	p. ～
15	[授業概要(林3)] 循環機能と体表刺激について [到達目標(林 3)] 循環機能を理解した	関連資料および論文の読解	p. ～

	上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。		
16	[授業概要(林4)] ストレスに対する生体調節機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解	p. ~
	[到達目標(林 4)] ストレスに対する生体調節機能の内、特に内分泌機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。		
17	[授業概要(糸井マ1)] 生体防御系の成り立ち：血液系細胞およびリンパ系細胞の特徴と機能およびその分化、リンパ系組織・器官の構造と機能	教材およびテキスト（シンプル免疫学）を見直し復習する	p. 3 ~18
	[到達目標(糸井マ 1)] 生体防御系の全体像を把握し、免疫系細胞および器官の機能を理解する		
18	[授業概要(糸井マ2)] 自然免疫：補体・貪食細胞・NK細胞	教材およびテキスト（シンプル免疫学）を見直し復習する	p. 14, 17 ~ 18, 36~40
	[到達目標(糸井マ 2)] 自然免疫による異物処理機構とサイトカイン産生について理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
19	[授業概要(糸井マ3)] 獲得性免疫：T細胞とB細胞の分化、抗体と活性化T細胞（エフェクターT細胞）の特徴と機能	教材およびテキスト（シンプル免疫学）を見直し復習する	p. 19 ~ 28, 47~66
	[到達目標(糸井マ 3)] T細胞およびB細胞の分子背景、抗原認識受容体の多様性形成、自己寛容について理解する。抗体のクラス特異的特徴と機能、ヘルパーT細胞（Th1, Th2, Th17）と細胞障害性T細胞の特徴と機能を理解する。		
20	[授業概要(糸井マ4)] 免疫応答調節と細胞移動－急性炎症	教材およびテキスト（シンプル免疫学）を見直し復習する	p. 28 ~ 34, 67~71
	[到達目標(糸井マ 4)] サイトカイン、ケモカインおよび細胞接着による免疫応答調節のメカニズムを理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
21	[授業概要(糸井マ5)] 感染免疫	教材およびテキスト（シンプル免疫学）を見直し復習する	p. 111 ~142
	[到達目標(糸井マ 5)] 細胞外細菌・細胞内で増殖する細菌・ウイルス等の病原体に特徴的な自然免疫および獲得免疫応答の過程を理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
	[授業概要(糸井マ6)] 外来抗原に対す		

22	るアレルギー	教材およびテキスト（シンプル免疫学）を見直し復習する	p. 85 ～97
	[到達目標(糸井マ 6)] I～IV型アレルギーの原因と発症のメカニズムについて理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
23	[授業概要(糸井マ7)] 自己免疫疾患	教材およびテキスト（シンプル免疫学）を見直し復習する	p. 99 ～111
	[到達目標(糸井マ 7)] 自己抗原に対するII～IV型アレルギーとしての自己免疫疾患の原因と発症のメカニズムについて理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
24	[授業概要(糸井マ8)] 神経内分泌免疫	教材およびテキスト（シンプル免疫学）を見直し復習する	p. 73 ～78
	[到達目標(糸井マ 8)] 免疫系の中核および末梢神経系による調節、および内分泌による調節について理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
25	[授業概要(斉藤1)] 東洋医学の古典の検索方法を学ぶ。	インターネットや図書館において、実際に古典文献の検索を行う。	
	[到達目標(斉藤 1)] 古典の検索方法を説明できる。		
26	[授業概要(斉藤2)] 東洋医学の古典の基本的な読み方を学ぶ。	『黄帝内経』(『素問』上古典天真論篇01など)を読む	
	[到達目標(斉藤 2)] 古典の基礎的な読み方を学ぶ。		
27	[授業概要(斉藤3)] 鍼灸臨床における感染防止対策について	鍼灸医療安全ガイドラインの感染防止対策について簡潔にまとめる。	
	[到達目標(斉藤 3)] 現状の鍼灸臨床における感染防止対策について理解する。		
28	[授業概要(斉藤4)] 鍼灸臨床における副作用・医療過誤・事故の現状について	鍼灸医療安全ガイドラインの副作用・医療過誤・事後について簡潔にまとめる。	
	[到達目標(斉藤 4)] 鍼灸臨床における副作用・医療過誤・事故の現状について理解する。		
29	[授業概要(角谷1)] 形態学的、機能学的にみた経絡について	生体刺激の伝導路とその特徴について見直して学習しておく。	
	[到達目標(角谷 1)] 経絡を基礎医学的に捉えて理解することができる。		
30	[授業概要(角谷2)] 形態学的、機能学的にみたツボについて	生体刺激の伝導路とその特徴について見直して学習しておく。	
	[到達目標(角谷 2)] 診察点であり治療		

	点であるツボを基礎医学的に捉えて理解することができる。		
31	[授業概要(和辻1)] 東洋医学の診察法、舌診の特徴・基本的診察法について学習する。	「新しい鍼灸診療」を読み理解を深める。	p. 26 ~29
	[到達目標(和辻 1)] 東洋医学の診察法の概要、舌診の特徴や基本的診察法、正常な舌所見などが説明できる。		
32	[授業概要(和辻2)] 舌診の基本的診察法・臨床応用について学習する。	「新しい鍼灸診療」を読み理解を深める。	p. 29 ~39
	[到達目標(和辻 2)] 舌診の基本的診察項目が説明できる。また舌診所見と病証との関係や予後判断が理解できる。		
リポート課題	<p>《課題1》形態学領域 『体表解剖と皮膚組織と鍼灸臨床との関連について』</p> <p>《課題2》機能学領域 『体表刺激と生体の調節機能について』</p> <p>《課題3》免疫学領域 『鍼灸刺激が生体防御系調節に関与し得る作用とそのメカニズムについて』</p> <p>《課題4》基礎鍼灸学領域 4つのテーマから1つのテーマを選び、考察する。 『東洋医学の古典文献の検索方法について』 『形態学的・機能学的にみた経絡について』 『鍼灸の安全性について』 『鍼灸臨床における舌診の意義と臨床応用について』</p>		
テキスト(配付資料)	<p>1. シンプル免疫学(改訂第3版), 中島泉, 高橋利忠, 吉開泰信, 南光堂</p> <p>4. 新しい鍼灸診療, 北出利勝編集, 医歯薬出版社, 2006. ※ 形態学・機能学領域については適宜指示する</p>		
参考文献	<p>1. 鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス, 南江堂, 北村清一郎・熊本賢三編集</p> <p>2. 解剖学アトラス, 文光堂, 越智淳三</p> <p>3. 体表解剖カラーアトラス, 南江堂, 佐藤達夫 監訳</p> <p>4. 生体の観察, 医歯薬出版, 星野一正</p> <p>5. 入門組織学, 南光堂, 牛木辰男</p> <p>6. 標準組織学 総論, 医学書院, 藤田恒夫・藤田尚男</p> <p>7. 標準組織学 各論, 医学書院, 藤田恒夫・藤田尚男</p> <p>8. Skin and its GRAY's Anatomy (40th Ed, Chapter 3, 7), Elsevier, Ch-Ed; Susan Standing (日本語版でもOK)</p> <p>9. もっとよくわかる!免疫学, 河本宏, 羊土社</p> <p>10. カラー図説・免疫、感染症と炎症性疾患における免疫応答, 笹月健彦監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル</p>		

	11. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル, 尾崎昭弘著, 医歯薬出版, 2003 12. 鍼灸臨床の科学, 西條一止, 熊澤孝朗監修, 医歯薬出版, 2000 13. 東洋医学を学ぶ人のために, 高木健太郎他監修, 医学書院, 1984
評価方法	各リポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。
その他(アドバイス等)	領域毎に随時、適当な文献を紹介する。

授 業 科 目 名	臨床鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	単位数 等	単位数	単位数等	単位数	単位数等
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	苗村健治、福田文彦 伊藤和憲、井上基浩、糸井 恵 北小路博司、糸井啓純、納谷佳男、樋口敏宏、山田 潤、田口玲奈 廣 正基、木村啓作					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、現代西洋医学の各診療科および鍼灸臨床の専門分野において、最新の知見について学習し、臨床鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	<p>現代西洋医学の各診療科の分野における鍼灸臨床の対象となる可能性 がある、あるいは有効と考えられるものを取り上げ、ガイドライン、 診断法、治療法及び評価法などについて、最新の現代医学及び鍼灸医 学に関する知見を教授する。また、鍼灸臨床の応用分野(スポーツ、予 防・未病医療、高齢者医療)における意義と役割について教授する。</p> <p>【内科系領域】 (苗村健治/2回) 呼吸器系疾患および循環器疾患における診断と治 療について、最新の知見を教授する。 (福田文彦/4回) 内科領域およびうつ状態(病)における予防及び治 療及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>【整形外科系領域】 (伊藤和憲/2回) 上肢・下肢の診方(筋痛症含む)に関する最新の知見 と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教 授する。 (井上基浩/4回) 腰痛および関節痛の病態に関する最新の知見、予 防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見を教授する。 (糸井 恵/2回) 整形外科系疾患における診断と治療について、最新 の知見を教授する。</p> <p>【外科系領域】 (北小路博司/1回) 排尿障害の病態に関する最新の知見と予防・治療 法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 (糸井啓純/1回) がん(特に消化器系)における診断と治療について、 最新の知見を教授する。 (樋口敏宏/1回) 脳疾患(特に脳血管障害)における診断と治療につ いて、最新の知見を教授する。 (納谷佳男/1回) 泌尿器科疾患(主として神経因性膀胱)における診 断と治療について、最新の知見を教授する。 (山田 潤/1回) 全身の免疫系を基軸において、眼疾患を中心とした 診断治療に関する最新の知見を教授する。 (伊藤和憲/2回) 急性痛と慢性痛の診方について、最新の知見を教授 する。 (田口玲奈/1回) 産婦人科(特に月経困難症)の病態に関する最新の</p>					

	<p>知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p>
	<p>【応用鍼灸系領域】 (山崎 翼／1回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に産業医学の観点から最近の知見を教授する。 (廣 正基／1回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に血压管理の観点から最近の知見を教授する。 (福田晋平／1回) 高齢者疾患に対する治療法及び鍼灸臨床の役割と意義について教授する。 (福田晋平／1回) パーキンソン病に対する治療法及び鍼灸臨床の役割と意義について教授する。 (木村啓作／1回) スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法について教授する。 (吉田行宏／1回) スポーツにおけるコンディショニングに関する最新の知見と鍼灸臨床との関わりについて教授する。 (谷口剛志／1回) 海外におけるスポーツ鍼灸事情の最新の知見について教授する。</p>
<p>視 点 (ね ら い)</p>	<p>【内科系領域】 1. 内科系疾患及び症状(一部精神疾患を含む)において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【整形外科系領域】 1. 整形外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【外科系領域】 1. 外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【応用鍼灸系領域】 1. スポーツ分野、予防・未病医学分野、高齢者医療分野における病態、予防・治療法及び鍼灸臨床の意義と役割について理解すること</p>
<p>授 業 計 画</p>	
<p>回</p>	<p>概 要</p>
<p>1</p>	<p>[授業概要(福田文1)] 糖尿病の疫学と病態について概説した上で、糖代謝に及ぼす鍼刺激効果について研究結果を交えて説明し、鍼灸治療が糖尿病に貢</p> <p>備考(授業時間外学習の指示等)</p> <p>糖尿病の病態生理については、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。鍼灸治療と糖尿病との関</p> <p>テキスト頁</p>

	<p>献する可能性について教授する。</p> <p>[到達目標(福田文1)] 糖尿病の疫学と病態について理解した上で、鍼灸治療が糖尿病においてどのような役割を担うことができるかを説明できる。</p>	<p>係については講義スライドで引用している学術雑誌等の内容を中心に補足勉強してください。</p>	
2	<p>[授業概要(福田文2)] 消化器疾患、特に食道及び下部消化管の病態と鍼灸治療について講義する。</p> <p>[到達目標(福田文2)] 消化器疾患、特に食道及び下部消化管の病態と鍼灸治療について理解できる。</p>	<p>各疾患の病態については、指定参考書で勉強してください。その他はスライドを参照の上、適宜参考文献で補足してください。</p>	
3	<p>[授業概要(福田文3)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について講義する。</p> <p>[到達目標(福田文3)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について理解できる。</p>	<p>各疾患の病態については、指定参考書で勉強してください。その他適宜参考文献で補足してください。</p>	
4	<p>[授業概要(苗村1)] 気管支喘息の診断と治療</p> <p>[到達目標(苗村1)] 気管支喘息の、現代医学からみた、病因、症状、診断、治療について理解する。</p>	<p>吸気疾患の診断及び治療について、指定参考書を参照しつつ各自勉強してください。</p>	
5	<p>[授業概要(苗村2)] 循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。</p> <p>[到達目標(苗村 2)] 循環器疾患の終末期像である心不全の疫学、病態および診断治療指針と予後について理解できる。</p>	<p>循環器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。</p>	
6	<p>[授業概要(福田文4)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について解説する。</p> <p>[到達目標(福田文4)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について理解する。</p>	<p>うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握について予習する。</p>	
7	<p>[授業概要(伊藤1)] 上肢の痛みと筋痛疾患</p> <p>[到達目標(伊藤 1)] 頰肩腕症候群や肩関節周囲炎など筋肉が関与する上肢の痛みに対して、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識(病態把握や治療法)について理解する。</p>	<p>はじめてのトリガーポイント鍼治療(医道の日本社)、ビジュアルでわかるトリガーポイント治療(緑書房)等で事前学習しておくことが望ましい。</p>	<p>p. ~</p>
8	<p>[授業概要(伊藤2)] 下肢の痛みと筋痛疾患</p> <p>[到達目標(伊藤 2)] 慢性腰痛など筋肉が関与する下肢の痛みに対して、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識(病態把握や治療法)について理解する。</p>	<p>同上</p>	<p>p. ~</p>
9	<p>[授業概要(井上1)] 腰下肢症状の理解と診察</p>	<p>椎間板の変性過程と病態の変遷につ</p>	<p>p.</p>

	[到達目標(井上 1)] 腰下肢症状の出現過程と診察法を理解する。	いて、学習する。	～
10	[授業概要(井上2)] 腰下肢症状に対する鍼灸治療	下肢末梢神経（特に坐骨神経と大腿神経）の走行を記憶する。坐骨神経血流と鍼・鍼通電刺激の関係を考察する。	p. ～
	[到達目標(井上 2)] 腰下肢症状に対する現代医学的な病態把握に基づく一般的鍼灸治療、特殊な鍼灸治療を理解する。		
11	[授業概要(糸井恵1)] 関節疾患（変形性関節症など）の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	関節疾患の基礎知識については参考書を利用して適宜補ってください。	p. ～
	[到達目標(糸井恵 1)] 関節疾患の病態に関する最新の知見について理解する。		
12	[授業概要(糸井恵2)] 腰椎疾患（椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症など）の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	教科書を読んで、腰椎疾患の西洋医学におけるガイドラインを理解する。（診察法、診断法、治療法について）。	p. ～
	[到達目標(糸井恵 2)] 腰椎疾患の病態に関する最新の知見について理解する。		
13	[授業概要(井上3)] 膝関節痛を発症する病態には様々な疾患が存在する。このことを理解する事は適切な鍼灸臨床を行う上でも、また鍼灸師としての適応と限界について考える点からも重要となる。ここでは、これらの膝関節痛を伴う疾患について教授する。	膝関節の解剖学的理解を深めておく。	p. ～
	[到達目標(井上 3)] 鍼灸師が日常臨床で理解すべき膝関節疾患（病態・症状・臨床所見・徒手検査など）について説明ができることを目的とする。また病態から鍼灸治療の適応と限界についても考えられるようにする。		
14	[授業概要(井上4)] 様々な膝関節痛を発症する疾患に対し、適切な治療方針を考える事は鍼灸臨床では重要となる。そこで膝関節痛に対する予防・治療法を教授する。	膝関節痛を発症する疾患の理解を深めておく。	p. ～
	[到達目標(井上4)] 鍼灸師として膝関節痛をどのような治療方針で考え、施術すべきかを理解できるようにする。特に鍼灸治療の方法はもとより現代医学的治療方法も理解し、鍼灸治療の新たな取りくみについても考察できるようにする。		
15	[授業概要(北小路1)] 排尿障害の病態に関する最新の鍼灸医療の知見につい	過活動膀胱に関する鍼灸の論文を検	

	て解説する。 [到達目標(北小路1)] 排尿障害の病態に関する最新の鍼灸医療の知見について理解する。	索し、現時点の有効性と限界を理解する(治療方法と評価について)。	
16	[授業概要(糸井啓1)] がん(特に消化器系)における診断と治療について、最新の知見を解説する。 [到達目標(糸井啓1)] がんの診断と治療について理解する。がんの様々な治療法が、治療ガイドラインに基づいていることを学ぶ。ここでは胃がんを中心に教授する。	胃がん治療ガイドライン(一般用)を読んで、現状の胃がん治療を理解する。胃がん治療ガイドラインを読んだ感想、内容で分かりやすい点、分かりにくい点をまとめる。胃がん治療ガイドラインは日本胃癌学会HIPより、無償でダウンロードできる。 (http://www.jgca.jp/PDFfiles/GL2IPPAN.pdf)	
17	[授業概要(樋口1)] 脳血管障害について、出血性疾患と虚血性(閉塞性)疾患にわけて、最新の知見を含めて解説する。 [到達目標(樋口1)] 脳血管障害の病態、疫学、診断、治療、予防について理解する。	脳血管障害の中でも、特にクモ膜下出血、脳出血、脳梗塞について、病態、疫学、診断、治療、予防に関する知識を蒐集し整理を行う。論文の検索、理解などによって、最新の知見を蒐集する。	
18	[授業概要(納谷1)] 泌尿器疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療について、最新の知見を教授する。 [到達目標(納谷1)] 泌尿器疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療の役割について説明できる。	講義スライドで出てくる用語については、参考書を適宜参照しつつ理解し説明できるようにしてください。	
19	[授業概要(山田1)] 全身の免疫系を基軸において、眼疾患を中心とした診断治療に関する最新の知見を教授する。 [到達目標(山田1)] 局所における細胞から組織、そして全身との関わりを理解し、疾患予防や治療戦略について理解する。	授業に関連した資料についての復習を行う。	
20	[授業概要(伊藤1)] 急性痛に関する診察方法と鍼灸治療のエビデンスや治効機序を教授する。 [到達目標(伊藤1)] 急性痛に対する鍼灸治療を理解する。	いちばんやさしい痛みの治療がわかる本(医道の日本)を参照。	
21	[授業概要(伊藤2)] 慢性痛に関する診察方法と鍼灸治療に関するエビデンスや治効機序を教授する。 [到達目標(伊藤2)] 慢性痛に対する鍼灸治療を理解する。	いちばんやさしい痛みの治療がわかる本(医道の日本)を参照。	

22	[授業概要(田口1)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。	
	[到達目標(田口 1)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について理解する。		
23	[授業概要(吉田1)] スポーツ鍼灸について		
	[到達目標(吉田 1)] スポーツ分野における予防・治療法及び鍼灸臨床(スポーツ鍼灸)の意義と役割について理解すること		
24	[授業概要(谷口1)] 海外のスポーツ鍼灸事情		
	[到達目標(谷口 1)] 海外のスポーツ鍼灸事情を理解できる。		
25	[授業概要(福田晋1)] 高齢者疾患としてパーキンソン病を取り上げ、疾患に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の方法と効果、可能性について教授する。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。	
	[到達目標(福田晋 1)] 高齢者の中枢性疾患(パーキンソン病)の病態、特徴的徴候、鑑別方法、評価、鍼灸治療法を理解できる。		
26	[授業概要(福田晋2)] 高齢者疾患として認知症、高齢者うつ病を取り上げ、疾患に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の方法と効果、可能性について教授する。		
	[到達目標(福田晋 2)] 高齢者の中枢性疾患(認知症、高齢者うつ病)の病態、特徴的徴候、鑑別方法、評価、鍼灸治療法を理解できる。		
27	[授業概要(廣1)] 未病医学における鍼灸臨床の応用、生活習慣病である高血圧症について血圧管理の観点から最近の知見を教授する。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。	
	[到達目標(廣 1)] 日本の高血圧ガイドラインについて把握するとともに、高血圧に対する鍼灸臨床の現状および血圧管理への応用について理解する。		
	[授業概要(山崎1)] 労働者の健康状況		

28	や健康問題についてふれ、それに対する鍼灸治療の有用性について紹介する。	関連文献(論文)による予習と復習をする。	
	[到達目標(山崎 1)] 労働者の健康管理を目的とした、産業領域における鍼灸治療の実際について知識をえる。		
29	[授業概要(木村1)] (1) コンタクト及びノンコンタクトスポーツにおける傷害の予防・治療・競技復帰までのリハビリテーションについて。(2) スポーツにおける傷害予防およびパフォーマンス向上に関する最新の研究について。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。	
	[到達目標(木村 1)] スポーツ分野における傷害の予防や治療方法(鍼灸治療の役割も含む)を理解する。		
30	[授業概要(谷口剛)] 海外におけるスポーツ鍼灸について教授する。		
	[到達目標(谷口剛)] 海外におけるスポーツ鍼灸について理解する。		
リポート課題	<p>《課題1》【内科系領域】 内科系疾患及あるいは症候(消化器、呼吸器、循環器)またはうつ病のいずれか1つについて、疾患(症候)の分類、診断、評価等について概説した上で、鍼灸治療の可能性について既存のエビデンスを含めて考察する。</p> <p>《課題2》【整形外科系領域】 整形外科系疾患及び症状(腰下肢痛、膝痛、上肢痛、下肢痛など)からいずれか1つを選んで、ガイドライン、診断法、治療法、評価法及び鍼灸臨床の可能性について考察する。</p> <p>《課題3》【外科系領域】 外科系疾患及び症状において、ガイドライン、診断法、評価法及び鍼灸臨床の可能性について、講義内容に含まれる疾患や症状の範囲からいずれか1つを選んでレポートする。</p> <p>《課題4》【応用鍼灸系領域】 スポーツ傷害分野、予防・未病医療分野、高齢者医療分野のいずれか1つを選んで、鍼灸臨床の意義及び役割についてエビデンスを踏まえて考察する。</p>		
テキスト(配付資料)	『図解 鍼灸療法技術ガイド』矢野忠他編著 文光堂 2010		
参考文献	1. 内科学第7版: 杉本恒明ほか編, 朝倉書店, 2009 2. 新臨床内科学第9版: 高久史麿ほか編, 医学書院, 2009 3. 鍼灸学臨床編: 天津中医薬大学ほか編, 東洋学術出版社, 1993 4. 標準外科学: 北島政樹編集, 医学書院, 2010 5. 標準整形外科学: 中村利孝編集, 医学書院, 2008		

	6. 図解整形外科学診断ガイド：露口雄一他著, 文光堂, 1996 7. 整形外科テスト法：斉藤明議監訳. 医道の日本, 1995 8. 排尿障害のすべて：渡邊決著 医薬ジャーナル社, 1998 9. よくわかる排尿トラブルの対処法：三木恒治・中尾昌宏編, 昭和堂, 2008 10. 現代の眼科学（改訂第9版）：所 敬, 吉田晃敏編著, 金原出版, 2006
評価方法	各レポート課題に合格した後、科目修了試験（レポート試験）を行い、総合して評価する。
その他（アドバイス等）	全日本鍼灸学会雑誌参考。随時、参考文献・資料を指示・推薦する。

授 業 科 目 名	実験研究法					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎梅田雅宏、川喜田健司、渡邊康晴					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、実験に関する基本的な実験計画法(研究デザイン、研究機器、評価法など)、統計処理などについて理解する。					
授 業 の 概 要	<p>研究計画の立案、各種実験系の方法論に関する基本的な知識および統計処理の仕方について教授する。</p> <p>(川喜田健司/8回) 実験計画法について教授する。特に研究デザイン、研究機器の使用法、評価法などを教授する。また、論文の書き方(実験目的・方法・結果のまとめ方・考察)について教授する。</p> <p>(高橋則人/8回) 医学分野で必要とされる統計法の使い方について教授する。特に実験データの管理法、処理法、PCの使い方などについて教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験計画法の基本について理解する。 2. 基本的な統計処理の方法について理解する。 3. 論文の書き方の基本を理解する。 4. 実験を行うに必要な基本的なルールについて理解する。 					
授 業 計 画						
回	概 要	備考(授業時間外学習の指示等)				テキスト頁
1	[授業概要(川喜田1)] 実験計画法のもつ意義と必要性	関連資料の読解				
	[到達目標(川喜田1)] 実験計画法の必要性を理解させる。					
2	[授業概要(川喜田2)] 研究課題と評価項目	関連資料の読解				
	[到達目標(川喜田2)] 研究課題と評価項目の設定の意味を理解させる。					
3	[授業概要(川喜田3)] 実験デザインについて	関連資料の読解				
	[到達目標(川喜田3)] 各種研究デザインの概要を理解させる。					
4	[授業概要(川喜田4)] 鍼灸研究に用いられる研究デザイン	関連資料の読解				
	[到達目標(川喜田4)] 鍼灸研究におけるデザインの重要性を理解させる。					
5	[授業概要(川喜田5)] プロトコールの書き方Ⅰ	関連資料の読解				
	[到達目標(川喜田5)] プロトコールの重要性を理解させる。					
6	[授業概要(川喜田6)] プロトコールの書き方Ⅱ	関連資料の読解				
	[到達目標(川喜田6)] 具体的なプロトコールの作成法を理解させる。					
7	[授業概要(川喜田7)] 論文の検索方法	関連資料の読解				
	[到達目標(川喜田7)] 論文の検索方法を理解さ					

	せる。		
8	[授業概要(川喜田8)] 論文の読み方	関連資料の読解	
	[到達目標(川喜田8)] 論文の構造とその内容を理解させる。		
9	[授業概要(梅田1)] 基本統計量(1)		
	[到達目標(梅田1)] PCを用いて基本統計量の計算を行えるようにする。		
10	[授業概要(梅田2)] 基本統計量(2)		
	[到達目標(高橋2)] PCを用いて基本統計量の計算を行えるようにする。		
11	[授業概要(梅田3)] データ集計の基本		
	[到達目標(梅田3)] 簡単なデータ集計を行えるようにする。		
12	[授業概要(梅田4)] 仮説検定の考え方		
	[到達目標(梅田4)] 仮説検定の原理を理解し、仮説をたてられるようにする。		
13	[授業概要(渡邊5)] 検定(1)		
	[到達目標(渡邊5)] PCを用いて簡単な検定を行えるようにする。		
14	[授業概要(渡邊6)] 検定(2)		
	[到達目標(渡邊6)] PCを用いて簡単な検定を行えるようにする。		
15	[授業概要(渡邊7)] 様々な検定		
	[到達目標(渡邊7)] 複雑な検定について、用途などを理解する。		
16	[授業概要(渡邊8)] アンケート分析		
	[到達目標(渡邊8)] アンケート調査の結果を分析する方法を理解する。		
リポート課題	《課題1》(川喜田) 各自の仮想研究課題にもとづくプロトコールの作成 《課題2》(梅田) 事例による統計処理の実際について		
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。		
参考文献	E B Mの道具箱第2版(E B Mライブラリー), カール・ヘネガン, ダグラス・バデノック, 中山書店, 2007		
評価方法	各リポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。		
その他 (アドバイス等)	随時、適当な文献を紹介する。 MS Excelの導入を強く勧める(Win、Macは問わない)。		